

身体的拘束最小化宣言

垂水中央病院は、開院以来、垂水市の医療ニーズに応え、市民の皆さまが安心して垂水で暮らし続けられるよう地域医療を支えることを使命として、地域とともに歩んでまいりました。

私たちは、「地域医療を支える」という使命、「垂水市内の患者さん、医療従事者から信頼され、選ばれる病院を目指す」という姿、そして「医療従事者同士のチームワークを大切にし、患者さんの立場に立った医療サービスを提供する」という行動指針を、医療におけるすべての判断と行動の基盤としています。

身体的拘束は、安全確保のためにやむを得ず行われる場合がありますが、同時に、患者さんの自由や尊厳を制限する行為であることを、私たちは重く受け止めています。

この認識のもと、当院の基本理念「病める人とともに、和と向上心をもって、総合的かつ継続的な地域医療の実現をめざします。」に基づき、身体的拘束の最小化を目指した取り組みとして、以下の方針を掲げます。

1. 「人を尊重する医療」の実践

すべての判断・ケアの起点に、患者さんの立場に立つという理念を置きます。

患者さんの意思や生活背景に丁寧に耳を傾け、身体的拘束に代わる手段について検討を重ねます。

安全と尊厳の両立を意識し、「拘束に頼らないケア」を日常の実践として積み重ねていくよう努めます。

2. 「チームで支えるケア」

身体的拘束は、特定の職種だけで判断するものではなく、医師・看護師・リハビリスタッフ・管理栄養士・ソーシャルワーカーなど、多職種が連携して向き合う「チーム全体の課題」であると考えています。また、事務職や病院運営を担う管理部門も、研修の充実、ICT導入、記録システムの整備、療養環境の改善などを通じて、現場の取り組みを組織全体で支える役割を担います。

チームワークを大切にし、患者さん一人ひとりに適したケアの提供に取り組みます。

3. ICT・環境整備による代替策の活用

見守り支援システム、排尿予測機器、認知症コミュニケーションロボットなど、ICTや各種機器を活用し、身体的拘束に頼らないケアのあり方を検討していきます。ICTは人に代わるものではなく、人を支える道具として、安全性と患者の自由の両立を支援するために活用していきます。

4. 現場からの改善と学びの継続

現場職員の声を尊重し、「こうすれば、より身体的拘束を減らせるのではないか」といった前向きな提案を大切にします。カンファレンスや事例共有、研修などを通じて、改善を継続しながら学びを深め、チームワークの精神を日々の実践に反映していきます。

5. 地域・家族との協働

患者さん、ご家族、地域の医療・介護機関と連携し、身体的拘束最小化に向けた考え方や取り組みを共有しながら、改善を重ねていきます。こうした取り組みを通じて、垂水市内の患者さん、医療従事者から信頼され、選ばれる病院を目指していきます。

6. 身体的拘束最小化の意義

身体的拘束の最小化とは、患者さんができる限り自由に、自分らしく暮らせるよう支えることです。

それは、私たちの使命、目指す姿、行動指針を、日々の医療の現場で具体的に実践していこうとする姿勢そのものです。

身体的拘束の最小化は、理念を形にする具体的な行動であり、人を尊重する病院づくりと、人を支えるチーム医療を大切にす姿勢の表れです。

私たちはこれからも、地域とともに、患者さんとともに、人の尊厳を大切にす医療の提供を目指してまいります。

2026年6月1日

垂水市立医療センター垂水中央病院 病院長・看護部長